

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成17年(2005)新春号



新潟県立村松高等学校東京同窓会

No. 38

2005 年頭に思う

東京同窓会長 佐伯 益一 (旧中27)



新しい年を迎えるにあたり、謹んで新潟県中越地震の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。また、先の三条市及び周辺各町村の風水害の復興が今だに成らざるおり、地域住民の皆様の物心両面にわたる度重なる悲運、心情は察するに余りあるものがあります。

自治体・自衛隊を始めボランティア等の皆さんの昼夜を分かたぬ救援活動、全国からの食料物資の拠出・輸送等のご努力に頭の下がる思いを致すと共に、日本人の気概いまだ衰えずと頼もしく感じている次第であります。

復興には相当な日時・費用を要し、ゴミや破損物の処理も大変なことと思いますが、行政関係は一日も早く最大最良の救済策を講じて再建を急ぎ、国土・国民が安泰であるようにと願っております。

遠隔の地に在って、なんら施す手だての無いのを残念に思っていました。新潟県人会の呼びかけに応じ街頭募金活動に参加し、ハンドマイクで通行人の方々に協力をお願い致しました。そして1円から1万円まで様々でしたが多くの方々から1千万円を越す浄財が寄せられたのには深く感動しております。

被災者の方々の速やかな立ち直りを祈り「頑張れ！」と声援を送っているところでもあります。

最後に我が松高東京同窓会でも、僅かですが県人会を通じて義援金をお贈りしてあることをご報告いたします。

扱てこの度、会報第38号をお届けする時期となった。心待ちにしている方もおられると思うが、何れの企業でも任意の会に於いても、社報や会報は読んであまり面白くないというのが定説であるらしい。

社報・会報はひとつの記録・報告であり、またPR誌でもある。そして如何にしたら楽しく読んで貰えるだろうかと、編集者は心を砕く。

我々の会報「臥龍が丘は緑なり」とて例外ではない。「楽しく読めるようなものでありたい」と会報の記事から何かしら得るもの、学ぶもの、意見の開示等があれば読む人は満足する筈である。なにしろ本会報は素人が計画や編集を行うのであるからして、ある程度の批判は免れないが我々としては上出来であろうと考える。

この会報は会員のみならず、僅かであるが外部の人にも配布して喜ばれている。お世辞ぬきで褒められ、いろいろと助言を頂いたりして有り難いと思う。

それに比べ会員からの反応が少なく、担当役員は一生懸命努力しているのに残念な思いがする。私は創刊以来の会報を全部揃えていて時々見るが良い同窓会誌だと思う。

さて平成17年は酉年である。謂うなれば鳥年である。今年こそ天駆ける大鵬の如く雄飛する年であれと願う。会員諸兄・諸姉には、個々の苦難を乗り越えて今年も元氣よく夫々の分野において活躍されることを念願し、新年を迎えるにあたってのご挨拶に代える。

副会長・事務局長 八木 又一郎 (7回)

新年おめでとうございます。



平成10年10月より事務局を担当してまいりましたがこの度、事務局兼務で副会長を仰せつかりました。さらなる責任の重大さに重圧を感じております。微力ではありますが同窓会の輪が少しでも広がっていくよう、また、皆様のお役に立てるように努力してまいります。何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

さて昨年は新潟県中之島町を中心とした台風の被害は今も大きな爪あとを残しており、また中越地方中心に襲った地震の被害は甚大なものでした。死者も多く被災者の皆様はこの冬の寒い雪の中で、どう過ごされているか心を痛めております。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今年は会員の皆様が、明るくご健康であること、そして良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

副会長・財務委員長 塚田 勝 (高8回)



新年おめでとうございます。昨年中は一方ならぬご協力を頂き心から感謝申し上げます。本年もご支援を宜しくお願い申し上げます。

昨年の大会も、皆様方のご協力により無事に開催出来有難う御座いました。時の流れとは申せ年々旧中の皆様が少なくなり、若い層も増えず寂しく感じます。我が母校だけではなく、全国的に他校も同じ傾向にあると聞いております。従いまして当然、収入は減少いたしますので極力出費を押さえ、経費削減に努めて参ります。

日本経済も昨年は回復基調と言われる中、ニートと呼ばれる働かぬ若者達が52万人、フリーターも益々増加傾向、正社員は減少等々で働き蜂と言われてきた日本の将来はどうなるのでしょうか？

昨年は少女に絡む凶悪事件、児童虐待事件、大人の不祥事などが続発し、相次ぐ台風の上陸(最多記録)や新潟中越大地震(避難生活者10万人越え)等、暗いニュースが多かった。災害に遭われた方々に対し心からお見舞い申し上げます。

しかし、明るいニュースもある。若い人達がアテネ五輪で、金16個、銀9個、銅12個の計37個のメダルを獲得し、パラリンピックでも金17個、銀15個、銅20個の計52個のメダルを獲得して過去最多となった。

大リーグではヤンキースの松井、マリナーズのイチローが大活躍した。特にイチローは、大リーグ史上84年間破られなかったジョージ・シスラー(257本)の年間最多安打記録を更新した(262安打)。頑張れ日本の若人よ！

松高卒の若い人達も奮って、伝統を繋ぐためにも東京同窓会に参加して盛り上げをお願いしたい。

私も今期より副会長として微力ではありますが、全力で頑張っていく積りですので、ご協力とご参加の程お願い致します。

ひよんなこと

村松高等学校長 水茎 芳英

明けましておめでとうございます。昨年10月23日、中越地方を襲った大地震は、山古志村をはじめ周辺市町村に未曾有の被害をもたらし、一時10万人以上もの方々が避難を強いられました。幸いにも、村松地区は被害がありませんでしたが、被災された方々・ご親戚の方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早く日常生活に戻ることができることを心からお祈り申し上げます。

ところで、地震などの災害は全く気まぐれで、いつどこで起こるか皆目見当がつかない厄介なことでございますが、我々の日常生活を見渡しますと、数々の偶然が、ひよんなことが、時には運良く、時には運悪く起こります。

地震で土砂の下敷きになりながら、5日目に奇跡的に救出された皆川優太ちゃん、本当に運が良かったケースでありましょう。そこで、松高にまつわる最近のひよんな出来事を拾ってみたいと思います。

昨年の10月9日(土)、ひよんなことから、今年の臥龍祭を盛り上げていただくことができました。9月中旬の松高五泉同窓会に出席させていただいた時に、たまたま、石川雄二様とお会いしました。新制第2回卒業の方です。いただいた名刺を拝見しますと、「新潟県美術家連盟会員」「新潟一水会会員」の他、美術関係の団体名がずらり。五泉市内の同窓生の中に他に何人か同じ会員の方がおられるというお話。

石川さんによれば、酒の勢いもあって、ついつい臥龍祭に参加させていただくことになってしまったという。小生は、それどころか、大変なご高作をお借りして、生徒に本当に良い絵の神髄に触れる機会を与えていただいたことに心から感謝しています。お酒が入っていなければご遠慮されたのかと思うと、まさにその「御神酒」にも感謝しなければなりません。石川さんと小生との出会いを豊かにしてくれた神様なのですから。

石川さんの他に、宮腰精梧様(旧制第24回卒)、本間猛様(新制12回卒)も一緒にご高作をご披露いただきま

した。石川様が呼びかけてくださったのです。感謝感激。

御三人様にお詫びしなければならないことがあります。当初、50号から100号サイズのを予定されていたのですが、展示用ボードの大きさや重量の規制等があつて30号以下にさせていただきました。生徒に披露するのであれば少しでも良いものを、との思いを踏みにじってしまった気がして大変申し訳なく思っています。

ところで、臥龍祭の開会式の折り、小生は「臥龍」の謂われについて話しをしました。当初はその予定ではなかったのですが、たまたま開会式に先立って披露された松高のシンボル(龍)について生徒に尋ねたのですが、驚いたことに、誰一人その謂われについては答えられなかったのです。そこで、ひよんなことから、「臥龍」の謂われについて話しをすることになりました。

松高の後ろの「臥龍が丘」と三国志の中の諸葛孔明の「臥龍」からきていること。その心は、臥して脛眠を食る龍ではなく、臥しても活気の漲る底力ある龍であれとの願いである、という旨を話しました。

そこで、臥龍祭の当日、ご高作の展示を見に来られた御三人様にこのことをお話しして、臥龍19号(昭和7年3月発行)にある編集後記の中の臥龍の謂われの頁をご紹介しますところ、御三人様は、大変懐かしがられ、昔の生徒会(臥龍会)誌の頁をめくり始められました。昔話に花が咲いている時に、宮腰様が、「あれ、俺の詩が載っている!」と驚かれました。ひよんなことから、67年前の自作に出会われたのです。「朝」という題で、あるがままの気持ちを素直に表現されている。とても今の高校生が書けるような代物ではない。当時の高校生と今の高校生の感受性や文章表現力のあまりの違いに驚きました。その頃の他の「臥龍」の中のどの文も大変格調が高く、とても今の生徒が及ばないものです。先輩諸氏の格の違いを感じました。

ひよんなことから、松高のお世話になって、はや2年が経とうとしています。この奇跡を無駄に終わらせたくないという思いで、学校改革にいそしんでおりますが、遅々として進まず、同窓会長様からいつも励まされております。今年もよろしく願いいたします。

総務委員長 金子 鶴男(高5回)

明けましておめでとうございます。

先日、友人から新潟の地酒「上善如水」をいただきました。中国の春秋時代、各地で群雄が割拠し、この乱世を救おうとするために多くの思想家が生まれました。

無為自然の教を説いた「老子」が「最上の善は水のようなものである。水は善く万物に利益を与えて争うようなことはしない」と云っているのだそうです。

「善い水を得て、この地酒は最上ですよ。自然の営みのままに作ったお酒ですよ」と言っているお酒の名前。

この地酒は越後湯沢の酒造家がネーミングを変えただけで売り上げが驚異的に上がったそうです。

東京同窓会も新しいネーミングを考えたら参加者が増えて、より活性化するでしょうかネ!・・・



副会長 深見 洋子(高7回)

新春のおよろこびを申し上げます。

同窓会に関わって何年になるのでしょうか。何時の間にか古希を迎える年令になってしまいました。

そろそろ、世代交代の時が来ているのでは、などと思いつつも、この何となく苛立ちの世相が濃厚な昨今、東京同窓会だけは、せめて癒しの場でありたいものと思っています。今年も、皆様の御協力のほど宜しくお願い申し上げます。また、平和な良き年であります様に!



副会長・広報委員長 大橋 貞夫(高10)

明けましておめでとうございます。

会報の作業は2月から大会号の、9月から新春号の原稿集めて始まります。会報作りは勤めの後の作業になるので常日頃から、皆様の投稿を切にお待ちしております。



松高東京同窓会・第四十七回大会報告

平成十六年六月十九日(土)、東天紅上野店で総勢七十三人が集い、四十七回大会が開催された。梅雨の晴れ間にも恵まれ続々と会員が集結し、正午に開催となる。

佐伯会長の挨拶に次いで藤田同窓会副会長の挨拶、水茎学校長の母校活動報告で来賓の挨拶が終了。続いて各委員会報告があり、前年度決算書が承認され一段落する。

今年は役員改選に当るので会長選出協議会が設置され、幾度となく固辞されたが最後に受諾して頂いた佐伯益一氏を指名し、総会にて承認される。新会長から四名の副会長指名があり、新たな抱負と希望を抱いて新年度をスタートすることになった。一時間弱の第一部は無事終了となる。鈴木節子氏の簡潔で華やかな乾杯により、いよいよお待ちかね第二部懇親会の幕開けである。一斉に堰を切ったような会話と笑い声で会場内は騒然となった。一年ぶりの再会で懐かしさとお互いの無事を称え合う笑顔があちこち満ち溢れ、同窓会の良さや意味合いを改めて感じ入る。

飲食も一段落する頃、突然ハワイアンが流れ、舞台がパッと華やかな彩りに包まれると、四人の踊り子達がしなやかに踊り始めた。鈴木女子率いる四人組のフラダンスが始まったのである。二十分近く続いた舞台にうっとり見とれ、酒を酌み交わしながら至福の一時を過ごす。

やがて、お待ちかねの大抽選会が始まる。持ち寄りの景品が次々と当選者に渡り、心躍らせて己の抽選札を見る。暫くして熊倉氏の佐渡おけさが始まると一緒に踊る人が現れ、次第に大きな輪になる。

やがて皆が興奮し始め、フラダンスまで一緒に踊り始めて、興奮冷めやらぬ様が続いた。最後に校歌・応援歌でお開きとなり、今年も無事に総会を締め括る。

二次会は三十九人の参加で始まり、学校長差し入れの「越乃寒梅」で乾杯。青木氏の演歌が続くなか、語り合いも尽きず時間のみ過ぎて、やがて閉会となる。今日一日に十分満足して再会を約し、東天紅を後にした。

大会実行委員会 記

東京同窓会・第47回大会収支決算書

平成16年6月19日(土) 於:「東天紅」上野店(不忍池畔)

財務委員長 塚田 勝

収入の部 (単位: 円)	支出の部 (単位: 円)
① 会員懇親会費 666,000 男子 53名 @10,000=530,000 女子 17名 @ 8,000=136,000	① 準備費 71,445 会議費 会館借用代 21,220 通信費 (葉書、切手) 50,225
② 祝 儀 40,000 同窓会本部4名	② 印刷費・コピー 5,200 案内状、会費納入
③ 会員寄付金 3名 11,000 笠原静夫7,000 塚田勝、吉井清 各2,000	③ 送 料 (宅配便) 2,340 会報・書類等 東天紅へ
◎ 当日の年会費納入者のご氏名は次の会報(第39号)に一括して掲載いたします。	④ 懇親会費 74名 513,310
	⑤ アトラクションお礼(3名) 15,000
	⑥ 来賓対応費(土産代4名) 19,404
	⑦ 写真撮影費 6,528
	⑧ 雑 費 1,480
合 計 717,000	合 計 634,707
	収支差引額(一般会計へ繰入) 82,293
総 計 717,000	総 計 717,000

新潟県中越地震災害お見舞い申し上げます

10月23日、新潟中越地方で台風の影響が未だ復旧せぬ間に、震度6強の地震が発生し大勢の方々が被災されました。その後、余震が群発して10万人を越す方々が避難生活を強いられ、最近では余震の頻度が減少したとは云え、不自由な生活を余儀なく過して居られます。そこで、10月30日の幹事会に語り、東京新潟県人会を通して当会より義援金5万円を寄付いたしました。皆様のご理解とご支援を何卒、お願い申し上げます。

第 47 回・東京同窓会出席者名簿

平成 16 年 6 月 19 日(土)

於 東天紅上野店

新潟県立村松高等学校東京同窓会

来 賓(4名)	旧中学校(3名)	高校男子(50名)	高校男子	高校女子(11名)
同窓会 副会長 藤田 暉輔 様 村松高等学校長 水茎 芳英 様 松高同窓会担当教諭 大塚 崇 様 松高同窓会事務局長 伊藤 ヒサ 様	27 佐伯 益一 27 吉田 公男 33 伊藤 勇五	02 青木 猛 02 杵淵 政海 02 篠川 恒夫 03 杉山 芳雄 03 亀山 知明 03 渡辺 八郎 04 大島 惣四郎 04 加藤 清治 04 梶屋 庄佑 04 原田 實 04 下野 文幹 04 鈴木 健司 04 鈴木 多喜男 04 弦巻 等 04 二宮 文三 04 湊 久直 05 金子 鶴男 05 雲村 俊徳 05 山崎 豊吉 06 佐久間 英輔 06 沢出 起允 07 加藤 喜七 07 長谷川 洋夫 07 八木 又一郎 08 伊藤 馥 08 鈴木 輝雄	08 小出 博三 08 関塚 豪 08 塚田 勝 08 吉井 清 08 高地 彰 08 松尾 正春 08 山崎 輝雄 09 石黒 四郎 09 熊倉 富次 09 間藤 謙一 10 大橋 貞夫 10 近藤 尚志 10 新保 優 12 安部 實 12 木村 安雄 12 近藤 洋輝 12 佐藤 栄治 13 金子 健二 16 小笠原 一憲 16 郡司 正大 16 服部 修治 18 青木 敏和 18 笠原 静夫 18 斉藤 正義	07 深見 洋子 08 岡部 ユキ 08 片柳 ムツ 08 木村 孝子 10 小島 典子 12 高岡 五百子 12 徳永 道子 12 中島 和子 14 斉藤 弘子 20 安達 繁子 21 小沢 幸子
 遠路お疲れ様です	旧女学校(6名)			
	25 大井 淑子 25 一氏 愛子 25 小林 早月 25 佐藤 玲子 25 鈴木 節子 25 佐藤 治子			
 佐渡おけさを踊る		 名司会のお二人		
		 乾杯!		

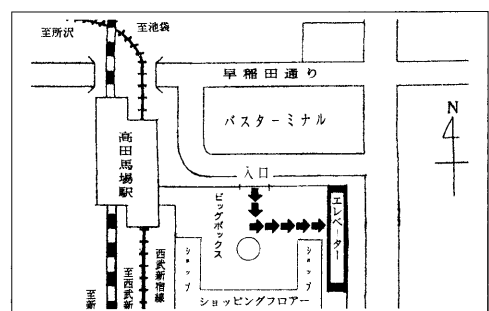
抽選会に景品寄贈された方々 (順不同・敬称略)

佐伯 益一 (中27)	吉田 公男 (中27)	伊藤 勇五 (中33)	青木 猛 (高02)	杵淵 政海 (高02)
篠川 恒夫 (高02)	鈴木 健司 (高04)	雲村 俊徳 (高05)	澤出 起允 (高06)	塚田 勝 (高08)
石黒 四郎 (高09)	大橋 貞夫 (高10)	斉藤 正義 (高18)	小林 早月 (女25)	佐藤 玲子 (女25)
鈴木 節子 (女25)	深見 洋子 (高07)	片柳 ムツ (高08)	木村 孝子 (高08)	小島 典子 (高10)
高岡五百子 (高12)	徳永 道子 (高12)	中島 和子 (高12)	斉藤 弘子 (高14)	安達 繁子 (高20)

◎ご協力ありがとうございました。尚、当日は受付混雑のため記載漏れがありましたら、謹んでお詫び申し上げます。

平成 17 年度東京同窓会開催のお知らせ

- ◎日時 17年6月4日(土)・正午開催
- ◎場所 ビッグボックス・9階「アルファ」
- ◎住所 新宿区高田馬場1-35-3
Tel 03-5272-5231
- 交通 JR・高田馬場駅——直結
西武新宿線・高田馬場駅——直結



お便りの中から

順不同・敬称略

松高校長 水荃 芳英

先日は心温まる礼状と写真をいただき、誠にありがとうございました。東京同窓会では大変お世話になりました。重ねて御礼申し上げます。

元松高校長 吉川 益男

会報を頂き誠に有り難う御座いました。いつもながら佐伯さんのコラム、同感であります。特に「落書きはだめ」は戦前からの慣わしでしょうけれど、これは人様の前で打ち振るものではありませんね。お元気で。

雲村 俊健 (高5回)

嬉しいお便り、胸を熱くして拝読いたしました。身勝手なデータ原稿をうまく活用し、一層わかりよくなされた筆力には、いさぎよく脱帽です。本当にありがとうございました。私は60歳まで編集一筋だったせいか、もの書きを志しても師匠とか弟子を、それほど必要だとは思いません。これから一匹狼で前進していくと思います。ただ一匹狼が悲しいのは世話になった大先輩が消えていくことです。佐伯先輩、何時いつまでも、あの大きな声で叱咤激励してください。

※佐伯註・新潟県人会会報に掲載された氏の著書紹介文及び村松町取材資料提供への礼に対する返書です。

東京新潟県人会広報委員 市川 昭二

同窓会報「臥龍が丘は緑なり」と「松城」のご恵送、誠に有り難う御座いました。早速拝読いたしました。

佐伯会長の元、弱卒なしの「臥龍が丘は緑なり」37号の「大往生」は早すぎる」は流石はプロ、文章の引き締め方、何よりも心憎いばかりの小見出し、実に教えられるところが多かったです。

「警女さ」上越の高田近郊からの「ごぜさ」を私は子供の頃よく見かけました。永久保存しておきます。懐かしいものです。「松城」編集後記にもある如く「ひまがあったら地図を見よう」名文！読ませます！どこかに小見出しを一つ入れると更に…見ても楽しく思いました。

お礼旁々我田引水のことなど並べました。

新潟県人会・元校正委員 坂牧 庄松

立派な同窓会報を、ありがとうございました。含蓄のある言葉を要所に配された素晴らしいご健筆ぶりに、心底から感服しながら懐かしく拝読いたしました。雑事に追われる毎日ですが無事に過しております。

松城終始会の集い

旧制中・第33回昭和23年3月卒

新制高・第1回 昭和24年3月卒

斎藤 和男 (高1回)

行楽の秋10月14日、恒例の我々同級の会が阿賀野市小松5050(旧安田町)「ホテル咲花」を会場として開催された。東京地区から7名が参加したが、私は今日、久方ぶりに新幹線で車窓を楽しみながら燕三条で下車、幹事の迎えて車でホテルへ。

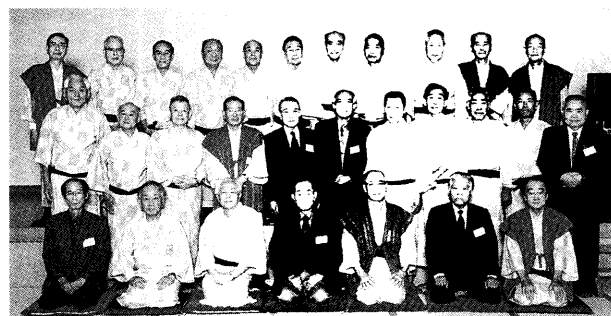
今日の出席者は32名、2年前より大幅に減ってしまった。欠席者の近況通信を見ると体調不良が殆んどであり、あらためて喜の字に近い年令となったことを、我が身共々振り返ってみる。

我々松城終始会の会合は従前から2年毎に村松、五泉、津川、新津、加茂の各通学区と東京地区を加えて6地区幹事持廻りで実施してきた。今日は新津地区担当の筈であつたが幹事編成が出来ず、結局、五泉地区の諸君での開催が実現したものである。

懇親に先立ち、開催に至る苦労話を交えた歓迎の挨拶のあと終始会継続の有無について諮られた。出席者交々の意見の後、2年後の開催年は喜寿を迎える年でもあり、是非開催することで纏った。会場は五泉村松、幹事には現在、実現に向けて協議が進められていて早晚成案となる五泉、村松合併を見る五泉、村松の諸君にお願いすることとなり了承された。そして従前開催年の幹事の作成になる配布資料の作成を省略し、各人へは開催案内だけとする事、出来るだけ幹事のご苦労を省くこととされ、松城終始会はめでたく継続されることとなった。

引き続き伊藤淳一母校同窓会長より、母校の活性化への芽生えの現状が語られ同窓会の協力、支援を続ける事は勿論であるが先生方のなお一層の指導力発揮の必要性をと期待を込めて説明があり、伊藤君の熱意と活躍に対し、只只敬意を払うところであるが、これに答える学校側の取組みを望みたい。

ついで同期50名の物故者への黙祷を捧げてから宴会に入り、2年ぶりの再会でお互いの健康を祝し夜を徹して大いに飲み、語り、そして2年後の再会を約して翌朝に解散した。



松城終始会五泉大会 於、ホテル「咲花」

傘寿がおどる酒と鮭

旧中27回同期会

佐伯 益一

申年霜月は8日、われら旧中27回卒の同期会が一泊で新潟市、松浜橋もと阿賀野川右畔「しかい」なる割烹旅館で開催された。「しかい」とは奇妙な名と思い、訊いてみると経営者の姓で、四家井と書く。地元で獲れた鮭料理が自慢で、膳に並べられた料理は全てが鮭のパレードであった。初めて聞く館内のトコ温泉で疲れを癒す。

馳せ参ずるもの10名、新規に一名加わった。「今まで何をしておったか?」「通知が無かったからよ」の応酬、愚痴ることしきり。飲ん兵衛が、また一人増えた。

案内通知には傘寿の祝いを兼ねてとあったが誰もそれに触れる者なし。相変わらず基敵同士の熱戦が始まる。簡単な経過報告のあと乾杯もそこそこに互い酒を注ぎあう。なんと忙しいことか。我々と同年配の芸妓さんと若女将が座を盛上げてくれる。例によって例の如く、夜の更けゆくを知らず。パブで二次会?カラオケに精を出す。即興の踊りも飛び出すが、遂には時間ですからと追い出されてしまった。朝もまた飲む。

10時解散となるも帰る者なし。久しぶりに市内でも見物しようかと車に分乗「朱鷺メッセ」に赴き31階の展望室から市内四方を見下ろし目覚しい発展ぶりに驚く、それで市内見物は終わりとなる。あとは?と問われるが皆、もうこれでよしと言う。さては飲み疲れか。

希望して、横田めぐみさんが拉致された地点付近を案内してもらう。誰も詳しい場所は知っていない。(それはそうだろう)寄居中学校を右に見て緩やかな寄居坂を上り切ると護国神社の前へ出る。直進して坂を下ると海水浴場寄居浜である。神社の前の信号を左折して約百米ぐらい。この辺だと言う。右は神社、左は旧日銀社宅跡で寂しい感じの通りである。なる程ナアーと思った。

間もなく車は駅前に戻る。メシドキだ!ということまで蕎麦屋へ入る。また飲む。

汽車時刻に合わせて解散となる。

幹事は五十嵐・須佐・木村の三兄。ご苦労様でした。

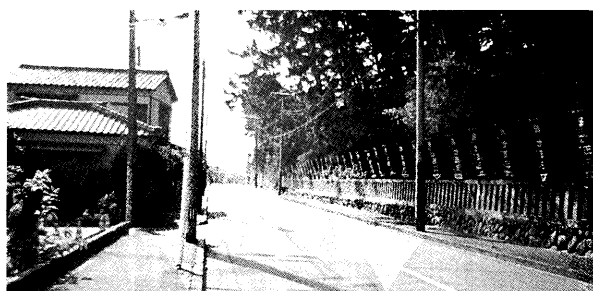
我々の仲間は卒業時は86名で2クラスであったが、約半数は戦死と病没、残りの半分は体調不良で門外不出、あとの残りは出席可能と判断するが、精々13~4人と云うところだろうか。会の継続の話が出たが「まだまだ続けよう」との結論。早くも次の同期会の話が出る。

五泉市と村松町が合併するのだから、五泉と村松の出身者が幹事となって計画せよとのご託宣。村松町を観光見学しようとの意見も出た。

話を前に戻すが、宿の鮭料理は素晴らしかったが酒に忙しく、あまり食べられなかった。そこで若女将に料理の献立を教えてくれと頼んだ。程なく礼状と共に説明書きが送られて来た。グルメの多い時代だから参考までに紹介しておきたい。



鮎子が立ち並ぶ朝飯どき



横田めぐみさんが拉致されたと思われる場所

①氷頭生酢 (ひずなます)

鮭の頭の骨を薄くスライスして甘酢と大根おろしと柚子であえる。

②めふん (ちあい)

鮭の血を1年以上塩漬けたもの 珍味

③鮭のすっぽん煮

鮭の頭の部を柔らかく煮込み、まるですっぽんのような口触りに仕上げたもの

④鮭の鮭浸し (さけひたし)

鮭の塩漬けを天日干ししてスライスしたもの
食べる時は酒に浸してふやかしてから食べる

⑤白子の揚げだし

鮭のすじを取り新鮮なうちに片栗粉をつけて揚げたもの

⑥こかわ煮

鮭をすり身にし大和芋などでのばし、団子にした中にイクラを入れて他の野菜と共に煮込んだもの

⑦信州むし

鮭で蕎麦を巻き、蒸しあげたもの

⑧焼漬け

焼いて、たれに漬けたもの

⑨いくら

⑩のっぺ (ととめ入り)

⑪腹子めし (いくら丼)

⑫がらじる (どうがら汁)

※サーモンで、この料理はつくれない (油が濃い)
新鮮な鮭でなければダメと云う

高4回生の同期会

鈴木 健司（東京在住）

岩室温泉ホテル「富士屋」で、平成16年9月27日隔年開催の同期会は、57名参集と大盛会となりました。

記念写真撮影の後、荒木幹事の開会の辞・唐橋会長の挨拶・物故者への黙祷・乾杯で懇親会に入りました。転居、転校のために今回初参加で58年ぶりの旧友との語り合いは、タイムマシンで一瞬のうちにローティーン時代に舞い戻った雰囲気になります。

秋の夜長に、気持ちは少年少女時代のまま懇親会場で・自分達の部屋で・2次会カウンターで、この会合に参加出来るお互いの健康に感謝しながら語り続けました。

翌28日は朝食後、寺泊町内の魚市場「魚のアメ横」などの観光・見物と、昼食会に出かけました。37名の参加となりました。

最初が巻町のワイナリー「カーブドッチ」でした。ワイン愛好者は数種類の銘柄の試飲に、にっこりでした。「越後七浦シーサイドライン」を南下し、寺泊町へ向いました。バス車窓越し海岸の絶景に歓声があがりました。次が大河津分水の新可動堰です。通常は河口から海へと流入している河水が、満潮時には海水に押されて逆流します。その調節の施設です。河口付近での逆流と、上流での順流と、反対に流れている現象を見て納得です。

目的地の寺泊町「魚のアメ横」では、三々五々買い物を楽しみました。「シーサイドライン」を引き返して、寺泊町野積のレストラン「庄屋」での海鮮料理の昼食が好評でした。まず、移築された「時代物建築」に感心し昼食料理の内容に満足したうえ、その料金が割安だと、満足の上乗せとなりました。

仕上がりは、寄り道したアイスクリーム屋さんです。特に女性の皆さんに大好評でした。

ホテル「富士屋」に帰着し「昨夜の懇親会はもちろん今日のバス旅行は楽しい旅行だった」と大好評・大満足。『また次の同期会でも、お互い元気にお会いしましょう』と誓い合っの解散となりました。

幹事役の諸兄弟の皆様、ありがとうございました



岩室温泉同期会（高4回生）
平成16年9月27日 於 富士屋

第15回松五会の集まり

石川 滋（東京在住、高5回）

東京近郊に住む村松高校の同級生有志は、食事・ゴルフ・東京の旧跡巡りなどを行いながら、月に一回は旧交を温めている。一方、隔年ごとに新潟で集まりを開いていたが、今年度は去る10月9日に咲花温泉で行われた。この柳水園には、同級生の村田久氏が勤務している。

今回の参加者は37名（男性25名、女性12名）であった。会に先立ち出席者の写真撮影が行われた。宴会は宮川氏（津川町）の司会で、亡くなった同級生に捧げる黙祷に引き続き行われた。70歳前後の同級生達は、大方は通常の勤務を終えて人生の後半に入っている。弦巻圭輔氏から、最近趣味としている日本舞踊の披露がおこなわれた。また、出席者の中には今回珍しく参加された方も居られ、はじめは老化した、近況も分からずにいたのが、アルコールの影響もあってか、直ぐに打ち解け、なかなかの盛況となった。

例年行われていた自己紹介を含めた一分間スピーチは、出席者が多く、且つ座がしらけるために省略された。

今年は、日本列島を縦断する台風の当たり年であったが、柳水園は高台にあり、地域の災害避難所ともなっているの、阿賀野川の増水にもかかわらず安心していられた。新しい会員の無い会ではあるが、皆な何時までも出席出来るように願いたいものである。



平成16年10月9日(土) 第15回松五会 新潟・柳水園にて

雲村 俊徳さん（高5）第四弾発表！

第一弾「小説仙寿院裕子」で堀爽とデビュー、それから「元禄の豹・堀部安兵衛」「大江戸怪盗伝」を次々と発表、今回、半日で歩ける「江戸・東京散歩35選」を上梓されました。——のんびり、ゆったり歴史情緒を楽しもう、便利なポケット・ガイドブック——

どこの書店でもPHP文庫コーナーにあります。税込み540円です。ぜひ、お買い求めいただき、協力・応援をお願い致します。（鶴）

松高6回卒3年1組同級会

佐久間 英輔 (高6回)

平成15年11月に五泉で同級会(参加16名)を開きその時、来年は古希でもあり高校卒業50周年の節目に当るので盛大にやろうと言う事になったのです。

そして16年10月24日、湯田上温泉・ホテル小柳にて開催されました。参加者は20名の予定でしたが、新潟県中越地震の影響で上越新幹線が不通となり、2名の欠席で18名となりました(澤出君も出席の予定が欠席せざるを得ず残念でした)。当日は夜遅くまで酒を飲み交わし、高校時代の思い出や日頃の生活ぶり、将来の話など賑やかな和気あいあいの雰囲気となりました。

その時、我々の会の名称を「ムサイ(631)会」と改称することに決まり、毎年開催する事になりましたので、大勢の皆さんが参加下さいますようお願い致します。

今後、健康には十分留意して、来年も元気に再会することを約し散会となりました。



松高第6期生3の1同級会

平成16年10月24日 於 ホテル小柳

ちょっといい話

略して言えばピンコロだが、これは歩道舗装用のピンコロ(小舗石)ではない。ピンピンコロリのことである。昨日までピンピン生きていた人が、今日突然コロリと逝ってしまうことである。

長野県では「PPKの里信州」というスローガンを掲げているが、これを地でいっているのが佐久市である。出来るだけ永く元気で、病まず、寝付かずその時が来たら誰にも迷惑をかけず、コロリと逝く。

即ち健康・長寿の願いを意味しているという。コロリ地蔵があり、参詣人が絶えないと聞く。同様に福島県西会津町野沢にもコロリ観音がある。

面白い言葉だが、前に聞いたことがある。願わくば一杯やりながらコロリと逝きたいものだ。

……身辺整理を急がなくなっちゃ!…… (伯)

七回生同期会

深見 洋子 (高7回)

十月十六日、東京周辺在住の七回生による復活二回目の同期会が、未だ現役で忙しい樋口昭夫さんのご尽力で、銀座の「オールドムービー」にて開催。

集まった面々は、最近年と共に男前になったと一部で噂の遠藤昭さん。古典源氏物語を読みつつ蘭を育てている加藤久子さん。言葉を全て失う程の脳梗塞から見事に復活した笠原大四郎さん。格調高い美声に一段と磨きがかかった近藤英洋さん。卒業以来、初めてお逢いした酒井慶蔵さんと、陸上部で活躍した松邨尚子さん。西の宮から体調を整えて掛けつけた、相変わらず美しい西村陽子さん。未だ病院関係の仕事をしている長谷川洋夫さん。我等が宇都宮の旦那、松尾辰雄さん。音楽を聴きながら絵を描いている山本由美子さん。いつも綺麗を心掛けている山本恵子さん。飲むと歌いたくなる築取錦二さん。小山市在住、日本酒党の渡辺清伍さん。そして、又一人、体調がおもわしくなくて心配していた田沢敬司さんも現れて、嬉しい限りでした。それに、樋口昭夫さん、深見洋子を加えて総勢十六名、和気相々、楽しい一刻でした。

二次会は築取さんプロデュースでカラオケを楽しみ、今回は二年後に決定。元気で、再会したいものと思っています。

アテネ五輪・雑感

暑い最中、選手や関係者の皆さん方、大変にご苦労様でした。感じた事を二つ三つほど。

日本は金メダル16、銀9、銅12を獲得したが、これをマスコミはゴールドラッシュと報道した。奥山へ金鉱探しに行ったわけではあるまいし奇異に感じた。金、銀、銅は優秀な成績を挙げた者に与えられるが、例え、これ等を得られずとも皆、涙と汗を流して奮闘したのであるから結果はどうであろうと褒めてやらねばと思う。

日本の優勝者が表彰台で栄誉を受ける時、国歌の吹奏や国旗掲揚の場面が殆どテレビで放映されなかったのも不思議に思った。言うまでもなく五輪は国威宣揚の場でもある。嘗てベルリンで五輪が開催された時、当時のヒットラーが五輪をナチス・ドイツの宣伝の場にしたとして後世、世界中から弾劾されたが、ある程度は領けられる。記録映画の陸上競技「民族の祭典」水上の「美の祭典」を観て興奮したことを覚えている。

遠い昔、昭和11年、小学校6年の時である。

各国の陸上選手の、へそ丸出しのユニホームにも驚いたが、セクシーさを多くの人は感じた筈。初回アテネでのマラソンでは全裸であったことを思えば特に気にする事はないし、当時はテレビも無かった。声援する人達の前を選手が通り過ぎるのはホンノー瞬であるから。

新聞報道によれば、アテネ五輪に要した費用は125億ドル(1兆5千億円)に上ると推定される。さきのシドニー五輪の8倍以上といわれている。2008年の北京では300億ドル(3兆6千億円)を越えると予想されている。日本はODA(政府開発援助)とか云って、絶対に金は出すべきでないと思っている。(伯)

青春の思い出

思い出せば儚くて切なくて万感の思い……

T. A 様

M・T (高12回)

初めて貴方様にお手紙致します。

高校に入学して間もなく、スポーツ部で汗を流して頑張っておられた姿を見て、ひそかに想いを寄せておりました。貴方は三年生で部長を務められ、とても輝いておられました。毎日、放課後には貴方の練習を遠くから眺め、それだけで満足していたあの頃……貴方の卒業が近づくにつれ落ち着かなかったあの時……今考えると自分の卒業式よりも、ずっと切なく悲しかったあの日……

その後、東京の大学へ進まれた貴方、私も後に東京へ、都電に乗って勤めに行く途中、貴方の大学の前を通り、この中で貴方は学生生活を謳歌されて居るのだろうかと思いつつ……あれから40年余り、片想いを懐かしく思い出しております。

ほろ苦い思い出

高森みずす (仮名)

青春真中の頃、それほど親しくもなかった異性からデートの誘いがあったのは、夏祭りの夜でした。

私は女らしく浴衣姿で心ときめかせながら待ち合わせ、夜店を観て廻りながら幼い頃を思い出し、お互い話が弾んで楽しい時間が流れて行きました。

帰りは送ってくれることになり、二人肩を並べて歩き始めましたがしだいに人通りの少ない裏道になって、いつしか言葉も少なくなり……突然、私の背中を扉に押しつけ、その人は両手で私をはさんできたので、もう吃驚して立ち竦み、身動きも出来ませんでした。それから静かに「ねえ……いいだろう」と云って迫ってきました。あとはご想像に……少し経って遠くの方でサイレンの音が聞こえ、お互いに顔を見合わせて少し離れ、これまでの甘い雰囲気もいっぺんに醒めてしまい「神様のいじわる」と思いながらも火事のことが気掛りで、急いで家に向いながらも別れ際、また逢うことにしましたが、私が約束を破りその後、二度と逢うこともなく今日に至っています。忘れ得ぬほろ苦い青春の思い出となり、固い蕾のまま脹らむこともなく終わりました。

グランドの汗が“青春”

佐藤 信三 (高6回、亀田町在住)

今にして思えば、松高のグランドで流した汗が、私の青春のような気がします。小、中学時代、野球バスケットなどスポーツ大好き人間の一人だった私が、陸上競技部に入部して三年、OBなどの先輩、上級生にしごかれながら、まさに雨の日も風の日も、ひたすら走り続けました。合宿や大会での思い出もさることながら、不思議と、あの緑濃き臥龍が丘での練習に次ぐ練習が強く印象に残っております。

いま68歳になるこの歳でも、比較的健康で我慢強く生きていられるのは、この青春時代に流した汗のお陰のように思えるのです。

五 泉 駅

渡辺 八郎 (高3回)

その昔、歓呼の聲に送られてこの駅から出征して行った人。運拙くこの駅に辿り着いた幾柱の英霊。そして終戦、帰還兵を迎え抱き合って喜んだこの駅。悲喜交々の場面を見続けてきた五泉駅は、近郷近在の人々の忘れ得ぬ心のふるさとでもある。

戦後、経済成長と共に金の卵もこの駅から都会へと旅立って行った。辛抱が実って成功を収めた人、何と無く都会に迎合して留まっている人、挫折して帰省した人。「ああ！上野駅」ほどの強烈な感動詞には及ばないが、戦前戦後を通じてこの停車場にも数多くのドラマと感動があった。

昭和二十年四月、旧制村松中学校に入学して以来六年間、この駅の厄介になった。入学早々に朝早く、上級生から駅前の広場へ召集がかかった。通勤・通学生（女学生）にじろじろ横目で見られながら円陣を組み、出征学徒を真ん中にして帽子を振り、蛮声を張り上げて応援歌を歌った。少々恥ずかしかったが、中学生になった自覚？と誇りを初めて感じたのである。その後も幾多の予科練習生・陸軍士官学校・海軍兵学校と、優秀なる先輩をこの駅で送ったのである。また新津新潟方面、津川鹿ノ瀬方面から汽車通学してくる人達の乗り替え駅でもある。列車の待ち時間にホームの端の方で、上級生に説教？を食っていた下級生を何度も見た。早く家に帰りたいがため、貨物列車に乗ったところを駅員に引き摺り降ろされたり、期限の切れた定期券が見付かって学校へ通報された人がいたり、汽車の線路を横切って駅員と喧嘩もした。振り返れば、数え切れないほどのエピソードがある。

当時、上京する人はたいてい最終の下り列車を利用した。「夜のプラットホーム」の惜別に涙した人も多かったであろう。今は日帰りも可能になって昔の悲壮感なんぞは思いも寄らないが、限られた人には忘れ得ぬ場所でもある。五泉、村松近郷に生まれ育った人が一度は通り過ぎた所であり、降客が改札口で団子状になって先を争ったものである。その中に誰かしら「オッ」と手を挙げて挨拶する人が必ず二人や三人はいた。今は脇見もせず黙ってスーッと通り過ぎていける。

自動車万能の社会になり、ゆっくりズムのローカル線を利用する人が少なくなって、乗降客がめっきり減ったとか。その上、昔通った蒲原鉄道も廃線になり、レールの無くなった線路跡だけが雑草に埋もれている。昔のひかり今、いずこ……

思い残すことはたった一度でいい、「祝甲子園出場！新潟県立村松高等学校」の横断幕がこのホームに張られる日を願ったが、ついぞ叶えられなかった。日を追う毎にこのホームに降り立つ友も少なくなってきた。

かつて青春の一齣を刻んでくれたこの駅が、磐越西線の存続と共にいつまでも残ってくれることを希いたい。

先生への手紙

佐伯 益一 (中27)

過日は色々と、ご高配を賜り有り難うございました。何しろ初めての経験で多少戸惑いましたが結果としては誠に良かったと思いました。

生徒たちの純真な気持ちにも感動いたしました。給食も生徒たちと一緒に楽しく美味しくいただきました。爺さん婆さんたちと、先生方と一緒にかなと思っていましたが、生徒たちと一緒にとは思いかけず、さすがだなと思いました。他の爺さん婆さんたちの話が長く、子供たちの質問の時間が少なくなったのはチョット残念でした。多くの子供たちが手を挙げているのですから、どんな事でも聞いてやるべきだとも思いました。

子供たちは知ることには貪欲なのですから。

「戦争は何故起こる」「万歳とは」の質問も良い質問だと思いました。

「万歳」は私が説明しようと思いましたが他の人が答えてくれましたので言いませんでしたが果たして子供たちが理解してくれたかどうか疑問です。

「万歳」とは「いつまでも元気で栄えてゆくようにとの願いを込めて」形に表したものです。

戦場で死んでゆく人は生き残った人のために。生きてる人たちはお互いの幸せのために言います。勝負に勝って「万歳！」と叫ぶのもその意味です。

「万歳」をする時は手のひらを必ず向い合わせにします。手のひらを前方へ向けるとこれは降参を意味します。お相撲さんが勝負前に手のひらを向け合って挨拶するのは、武器は何も持っていないよ、との意味です。

私は会合などの折に万歳三唱の音頭を請われると必ずこの事を説明してから万歳を唱えています。

戦場で死ぬ兵隊さんが「天皇陛下万歳」とか「大日本帝国万歳」と言い残しているのは作られた話、そんな長い言葉は言うひまがありません。殆んどは「お母さん」か、子供の名前であると聞いております。

戦争中、多くの私の友人が召集を受けて戦地へ行きました。「君は体が弱い、手柄を立てようなどとは決して思わない。任務に忠実であれば良い。必ず生きて帰って来い」と、送別の挨拶で述べて、あとで役所の上司から注意を受けた事がありました。死ぬのが当たり前の時代だったのですね。多くの友達が死にました。

参加者の一人がテープで軍歌を披露しましたが、軍歌とは「兵士の士気を鼓舞するための歌」と辞書にあります。悲しい歌もたくさんあります。むしろ悲しい歌の方が多いようです。悲惨な詩もありました。今の子供たちには分からないかも知れませんが。

私もカラオケで軍歌を、たまに歌いますが精々一つか二つです。しかも戦友愛を中心としたものだけです。

始めにお話をした時に「定刻五分前」を守るようにと

言いましたが、これは決められた規則、約束事は必ず守らなければならないと云うこと、集合時間の五分前には必ず集まっていることです。「心の準備が大切」だと言いたかったのですが、ちょっと言葉足らずのようでした。

このことは学生時代に厳しく教育されました。

「気をつけ！」の号令も、次の動作に移る前の心の準備を促したものです。

お礼を込めて思いつくままに書きましたが、意の尽くせぬところは、ご推考ください。あらためて生徒のみなさんに伝えていただければ幸いです。

とても良い試みでした。また機会を作ってください。

「おじいちゃん、また、話を聞かせてね」と子供たちから言われたのが、とても嬉しかったです。(後略)

☆—————☆

この手紙は半年ほど前、小学校四年の孫娘の通う近くの小学校で催された四年生を対象とした「おじいさん・おばあさんから戦争のときの話を聞く会」に招待されて、話をした時の礼状に対する返事の手紙である。

ご夫婦二組の他二人、それに私(孫が手を挙げたらしい)。こもごも体験を語ったが、時間が足りなかった。樺太からの引き揚げ、空襲、食糧難などの話が多かったが果たして理解できたかどうか。私は「何か身に付くものを」と考えて話をし、「戦争は何故起こる」は子供の喧嘩を例にして話した。私が二番目の年長者であった。

あとで担任の先生が生徒たちに、この手紙を読んで聞かせたと孫から聞いた。

ちょっといい話

一病院にて一

総合病院は長く待たされるため、いつもは本を持参するのだが、その日に限って忘れてしまった。待ち時間が何時もより長く感じられ、次第に疲れが増してきた頃、待合室で隣り合わせたお婆さんに話しかけられ、暫くの間たわいもない世間話をした。お陰様で診察までの時間をイライラすることなく過せた。帰り際に「お大事に」と声を掛けられ、和んだ気持ちで帰路に付くことが出来た。 塚田 勝 (高8)

ちょっと想う事

一老後一

若い頃、「優雅な年金暮らしで毎日、三食とも外食なの」と云う噂を聞き、どんな人か会いたいと思っていたが、結局会う機会が無かった。三食とも外食と云う言葉は実に魅力的で、「私達夫婦もそんな老後を送りたい」とひそかに憧れていた。ところが、現実とは違った。

「食事は家で」が鉄則。私も、たまにする外食の後には必ず思う。「やはり家がいいな」と。 塚田 勝 (高8)

蒲原鉄道の電車

加藤 系一（高7回）

蒲原鉄道は、五泉～村松間 4.2Km を大正 12 年 10 月 22 日に開通し、昭和 5 年 10 月 20 日には村松～加茂間 17.7Km を完了、全線 21.9Km が開通した。その後、昭和 60 年 3 月 31 日をもって村松～加茂間を廃止。平成 11 年 10 月 3 日には五泉～村松間を廃止。77 年続いた鉄道の使命を終えた。小生が村松高校時代を過ごした昭和 27 年 4 月～昭和 30 年 3 月の頃は津川、三川、五泉方面からこの電車を利用して通学する同級生や同学年が大勢いた。旧制村松中学校及び村松高等学校卒業の方々は村松在住を含めてみんな蒲原鉄道電車のお世話になった筈である。

ふと思ったって、所縁の地に展示されている電車を撮ってみた。見てみると、いろいろな場面が思い浮かんでくる。独特な汽笛の音、走っている時の音、油の染み込んだ床と匂い、そして売店のある薄暗い駅舎、等々……

皆さんはどんな思い出があるのだろうか。電車の写真を見て村松に想いをはせて貰いたい。

そう、高校一年の時、村松駅前に集合して、陸上か何かの大会に出場する選手の激励会が行われ、学帽を握り振って声を張り上げて応援歌を歌った記憶がある。

小生の母は明治 44 年 3 月 1 日生まれで 94 歳に近づいているが記憶は確りしているので聞いてみると、11 歳か 12 歳の時、走っている電車には乗らなかったけど、駅のホームに停車している沢山の花で飾られた「花電車」が一般に公開されていて、友達と中へ入った覚えがあるという。多分、モハ 1 型の電車であろう。



ED 1

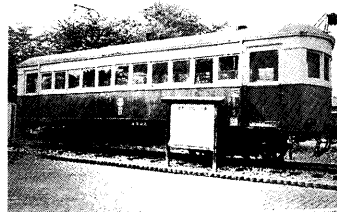
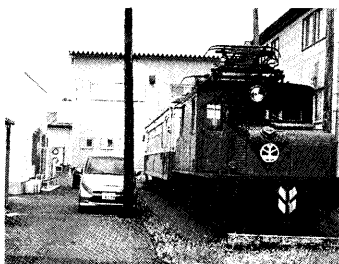
後方はモハ 31

蒲鉄唯一の電気機関車。車両が多連結の時に先頭になって牽引、貨物車を牽引、冬の除雪でラッセルに活躍。もと蒲鉄車庫敷地に展示。

モハ 1

蒲鉄最古の電車。廃線になる頃は車庫の傍らで物置として使われていた。

加茂市冬鳥越の市民公園に展示



モハ 11

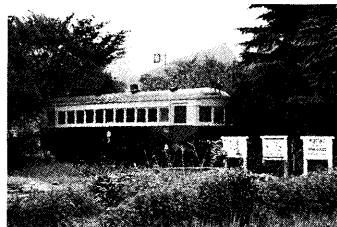
蒲鉄で最も長年月活躍した電車。正面の窓が三つになっている。

停まっている時のブレーキ用エアを圧縮するカナカナという音！

村松町西公園に展示。

蒲鉄村松駅舎

安田民俗資料館として移築、利用されている。個人（神田さん）の所有。旧制村松中学校出身である。



モハ 21

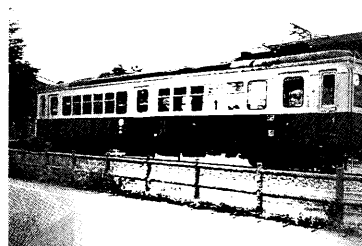
安田民俗資料館の一角に展示。駅名の立て看板も神田さんのコレクションである。

西公園のモハ 11 とは兄弟電車である。

モハ 41

蒲鉄では新しい方の電車。座席数も多い。出入り口が片側に三つある。

五泉市栗島公園内の市民総合会館前に展示してある。



左、モハ 71

右、クハ 10

連結部に蛇腹の通路がある。モハ 71 にモーターがあり五泉、村松間の通勤ラッシュを捌いた。五泉村松街道沿いの敷地に展示。

割烹（松の家）社主の周佐義雄氏の所有。



町(まち・ちょう) 村(むら・そん)

沢出 昶允(高6回卒)

都道府県名	まち	ちょう	むら	そん	備考	
北海道	1	0	0		森町=もりまち	北海道、チョウ、ムラ、1箇所マチ
青森	0	1	0		階上町=はしかみちょう	青森県、マチ、ムラ、1箇所チョウ
岩手	10	20	0			岩手県、マチ、チョウ混在
宮城	21	37	0			宮城県、マチ、チョウ混在
秋田	0		0			秋田県、マチ、ムラ
山形	0	1	0		河北町=かほくちょう	山形県、マチ、ムラ、1箇所チョウ
福島	0		0			福島県、マチ、ムラ
茨城・千葉	0		0			関東各都県、新潟県、マチ、ムラ
栃木・群馬	0		0			
埼玉・神奈川	0		0			
東京	0		0			
新潟	0		0			
長野	0	1	0		阿南町=あなんちょう	長野県、マチ、ムラ、1箇所チョウ
山梨	7	28	0			山梨県、マチ、チョウ混在
富山・石川	0		0			富山、石川県、マチ、ムラ
福井・岐阜		0	0			福井、岐阜県、チョウ、ムラ
静岡	1	0	0		森町=もりまち	静岡県、チョウ、ムラ、1箇所マチ
愛知・三重		0	0			愛知、三重県、チョウ、ムラ
滋賀・京都		0	0			滋賀県、京都府、チョウ、ムラ
奈良・和歌山		0	0			奈良、和歌山県、チョウ、ムラ
大阪		0	0			大阪府、チョウ、ムラ
兵庫		0	……	……		兵庫県、チョウ ○村はない
鳥取		0		0		鳥取県、チョウ、ソン
島根	5	0	0	0		島根県、町・村とも混在
広島	1	0		0	豊町=ゆたかまち	広島県、チョウ、ソン、1箇所マチ
岡山・山口		0		0		岡山、山口県、チョウ、ソン
徳島	1	0		0	脇町=わきまち	徳島県、チョウ、ソン、1箇所マチ
香川		0	……	……	村はなし	香川県、チョウ ○村はない
愛媛		0	0			愛媛県、チョウ、ムラ
高知		0	0	4		高知県、チョウ、ムラ、4箇所ソン
福岡	0	1	0		遠賀町=おんがちょう	福岡県、マチ、ムラ、1箇所チョウ
佐賀	9	28	0	1	東背振村=ひがしせふりそん	佐賀県、町混在…ムラ、1箇所ソン
長崎	3	0	……	……	愛野、加津佐、宇久はマチ	長崎県、チョウ、3箇所マチ ○村はない
熊本	0		0	2	波野、清和はソン	熊本県、マチ、ムラ 2箇所ソン
大分	0	5	0	1	直川村=なおかわそん	大分県、町混在、ムラ、1箇所ソン
宮崎		0		0		宮崎県、チョウ、ソン
鹿児島		0	5	4		鹿児島県、マチ ムラ、ソン混在
沖縄		0		0		沖縄県、チョウ、ソン
都道府県 47	28	30	37	12	村のない県 3	

平成16年10月23日、新潟県中越地方では、大災害となり連日テレビで被災地の状況が放映された。テレビでちょっと気になったことがある。被災地の小出町を「コイデチョウ」と何度も繰り返し読んでいたこと。コイデチョウは明らかに間違った言い方である。「チョウ」を「マチ」と後で訂正することなく終わった。新潟県は町を「マチ」と読んでいる県である。

公共放送、マスコミ関係に携わる人達は、固有名詞を正確に読んでいただきたい。万一、間違った場合は後で訂正してほしいと思う。

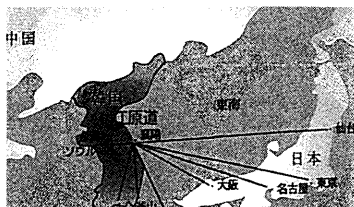
(注) 現在、市町村合併が進行中のため会報が発行される頃には、表と一致しない場合もあることをご了承いただきたい。

「冬のソナタ」 ツアー

安達 繁子 (高20回)

こんなに涙し、感動した事があつたでしょうか。DVDを20回位は観たでしょうか。台詞まで覚え、シナリオ、キャスティング、メロディと三拍子揃った素晴らしいドラマ。地上波でもスタートしたばかり、今のうちに是非訪れようと。四月三日にペ・ヨンジュンが来日し、ヨン様フィーバーをおこし、あっという間に帰国し、まだ余韻の覚めやらぬ

四月十六日、三泊四日の旅に娘と一緒に成田を出発。二時間で仁川(インチョン)空港に。バスで南怡島(ナミソム)へ。メタセコイヤの並



木が美しい、初雪デート等で何度も来て、周りの湖の風景と共に胸を熱くさせる島。雪だるまを作った積りでベンチにかけ。添乗員は冬ソナの名曲をカセットに入れて持ち歩きながら流してくれます。メロディを聞いただけで場面が浮かぶ。何といっても参加者全員が同じ目的で来ているので、すぐ友達に。カフェ「恋歌」では出演者のサインもあり、グッズが買えた。

春川(チュンチョン)はソウルから東北に約80km、懐かしさがこみ上げて来る素朴な街、物語の始まりの街。夕食はタッカルビを。それから春川明洞(ミョンドン)通りのロケ地見学。大晦日に会う約束したツリーの木は、案内のポスターもあり写真を撮っていると、地元の高校生が「ニホンカラデスカ?」と。こちら「ニホンゴ、ガンバッテネ」と。ホテルで食べようと苺を一パック6,000ウオン(約600円)で買う。新鮮で大粒、日本のパックの三倍はあり甘くて美味しかった。

十七日朝食後、春川市内のロケ。一話でユジンが黄色のコートに、画板とお弁当箱を手を走ってくる細い路地。地元のお年寄りの方に「アンニョン、ハセヨ」と挨拶したら「チョウセンゴ、ジョウズネ」と。植民地時代の方かも。今こうして仲良くなれたのは本当に良かった。チュンサンの家、駅、乗り越えた塀、バス停を見て東海(トンヘ)へ。十八話で、愛しているがどうにもならぬ障害で、彼女を手放そうとする海岸。イカが一杯干してあり、カモメが数羽。ロケでは、イカの内臓を撒いて呼び寄せたようだ。波に戯れる二人、砂浜に寝転んでおしゃべりする二人、思い出に何も残すまいと500ウオンの小銭、カメラ、大切なボラリスのネックレスまで海に投げる。物悲しいメロディが涙を誘う。

夕方、龍平(ヨンピョン)へ。ソウルから約200km、車で三時間くらい離れた高級リゾート地、愛を育んだ所。十八日の朝食は、ホテル内組と地元の食堂組に分かれ、

我々は車で外へ。干しダラのスープとアルミの器にご飯、おかずは十五種類位あり、デザートに甘酒が、これで4500ウオン(450円)。朝一番にゴンドラに乗る。早いので貸し切り状態。眩しい陽射にキラキラ輝いて乗って行く二人、雪をかけ合う二人、ネックレスを雪の中に入れ投げてあげる。降雪機が美しいシーンをかもし出す。純愛物語を更に盛上げる雪、初恋の儚さと純粋さが出ている。四話で「好きな人の心が一番すてきだと思います」と、ハッとさせた従業員ロッジの小路。十話で「私、ミニョンさんには、ご免なさいなんて言いません。私の一番大切なものを持って行ったから。私の心を持って行ったから、愛しています」とサンヒョクの元に戻る心境も涙が流れる。イルミネーションに輝くロマンチックな所だった。

十八日夕方、ソウルプラザホテルに。チュンサンが常宿に使っていた1952号は、一泊十万円。添乗員は、この部屋を決めてからツアー計画を組むと。シーンを思い出しながらソファに。ベッドで横になり、写真を撮る。居間と寝室の二間続き。夕方からは自由行動で明洞へ行き、ロッテ免税店で買い忘れていたボラリスのピアスを。金額に応じヨン様グッズが貰えた。バネウもあり、身近に感じられた。生写真、化粧品、パク・ヨンハのCDやDVDを。オールドアンドニューの洋服も買い求める。

十九日は最終日。ソウル市内のロケ地を見学。高校、ユジンの家、マルシアン、ボラリスの会社、模型を渡した公園の白いベンチ等を目に焼き付けて夕方、仁川空港に。我々三泊四日組は、ここで終了。数人は外島(ウエド)にある「不可能な家」見学のために釜山(プサン)へ。そこからフェリーで行く事に。後で聞いたら、天候の具合が悪くて船が出ず、残念だったと。

お隣の国とは云えない位、近くて美しい親切な国。政治家が努力しても解決出来ないような事を、一人の俳優のお陰でわだかまりも消え去ろうとは、素晴らしい力だったのではないのでしょうか。もう一度、雪の舞う頃に訪れようと計画中。二人に会えるように。

江原道 Romantic Tour



「澤 雅久個展」を観る

茂野 本史 (高12回)

級友澤雅久君の個展が9月12日から24日まで立川の多摩中央信用金庫本店のたましんギャラリーを会場に開催された。3年前、新潟の知足美術館でも個展を開いているが、東京では1997年の東京交通会館ゴールドサロン個展以来7年ぶりである。

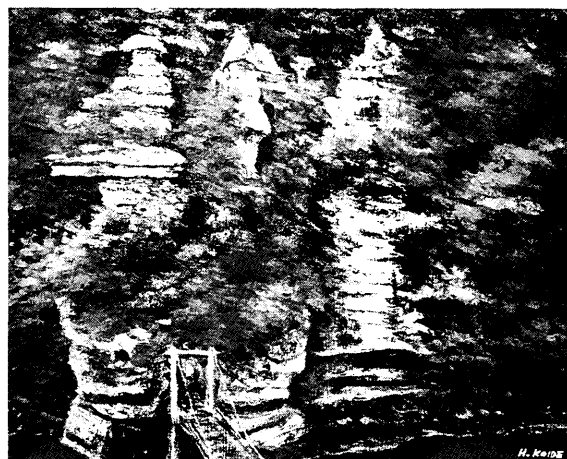
今回は小品から大作まで、従来にないほど点数が展示され、近年の彼の画業を知るまたとない機会となった。澤カラーとも言うべき深く透明感のある色調、そして絶妙な配色が洗練された構図と一体となって完成度の高い独自の世界を創り出している。

資生堂ギャラリーで開かれた1987年の初個展以来、彼の個展と言うと、さながら松高同期会の観を呈している。今回もまたクラスの枠を越えて多くの同期生が集まった。松高時代に『美術手帳』を購入し、ゴッホ展を見に上京するなど彼の油絵への情熱は級友の誰もが一目置いていた。母校武蔵野美術大教官の傍ら、これまで独立美術協会展を主要な作品発表の場として活躍してきた。若い頃よりトルコを含む地中海諸国に長、短期の滞在を何度も体験したことは彼の画風と無縁ではあるまい。

村松でも城下町の雰囲気の色濃く残す、御徒町の奥まったところにあった彼の家はいつ遊びに行っても仲間の誰かが居たものだった。夜遅くまでよく語り合ったものだった。澤君の個展がすっかり頭の白くなった村松の仲間を今も結び付けている。



——個展のお知らせ——



秋彩(塔のへつり) F12



奥入瀬の春 M100

第7回 小出博三氏 (高8回) 油絵展

■会期 '05/2月27日(日)~3月5日(土)
AM11:00~PM7:00最終日はPM5:00まで
■会場 東京交通会館B1(シルバーサロンA)
東京都千代田区有楽町2-10-1 TEL. 03-3215-3826



JR線 有楽町駅 京橋口 下車正面
地下鉄 有楽町線 有楽町駅 下車A8出口
丸ノ内線 銀座駅 下車

アトリエ ●〒274-0812船橋市三咲7-22-20 TEL.047-448-9632

ちょつといい話

行きつけの近くの郵便局へ菓子折を持っていった「頂きものだが、お裾分けた」と窓口へ。

「裾を分けたら何が見える？」と、冗談を言ったらすかさず「裾をあけるとタイヘンなところが見えます」と答えが返ってきた。ウーッと唸ってしまった。

近來まれに聞く若い女性の洒落というか機知である。家に帰ってから独りで笑っていたら、孫娘が「おじいちゃん、どうしたの？」と変な顔をしていた。

説明はできない。

(伯)

いやーな感じがしてうニュース

伊藤 勇五 (旧中 33 回)

今年の夏は本当に暑かった。それでも 9 月の末ともなれば事務所の扇風機を片付けることが出来た。それから一月余り台風が重ねて発生、雨の多い天気が続いた。10 月の終わる日にそろそろと思い、納ってあるストーブを棚から下ろした。箱を開け一番上に載せてあった新聞紙を手にとったら、平成 15 年 2 月 4 日付け毎日新聞の朝刊だった。何気なく見たら一面下段のコラム欄の「いやーな感じがしてうニュースがある」という書き出しが目を引きいた。更に目を移すと「この感じを説明するのは難しい」としながら、最近の実例をあげたのが川崎市の「古書店閉店強要事件」だった。要約すると、中学 3 年の男子生徒がコミック 6 冊を万引きして店長に見付かった。名前を訊いても答えないので止む無く店長が警察に連絡した。パトカーで駆け付けた警官が同行を求めると生徒は逃げ出した。そして踏切の遮断機をくぐり電車に跳ねられて死んだ。真に不幸な出来事だったが、世間一般の常識では古書店の店長にはこの結末に対する責任は無い。ところが店長を非難する電話やフアックスが相次いだ。「人殺し」「配慮が足りない」「なぜ警察に引き渡したか」など、いずれも店長の責任を厳しく問う内容だった。店長は廃業を決め、非難に対するお詫びの張り紙を出した。彼にとっても全く思いがけない結末だった筈だ。いきなり廃業という選択には驚くが、それだけ死を招いた結末

に気も動転していたのだろう。だが世の中捨てたもんじゃない。店長には励ましの声が沢山寄せられ、廃業は一時棚上げとなった。それにしても店長を非難した人達は何を考えていたのだろうか。たかが「万引き程度」という思いがどこかにあったのか。事のよって来る所以を深く考えることなく、人を非難する声だけが大い。しかも多くの場合、匿名である。いやーな感じはそんな社会風潮の一端に触れたせい。か。

読んでいる途中で私もいやーな気分になった。一度に 6 冊もの漫画本を万引きするのは出来心ではない。見付かって何を聞かれても答えないのには、店長も手古ずった事だろう。店長を非難した人達に聞いてみたい。黙りを押し通すこの生徒に、どんな配慮をすれば足りなのか。なぜ警察に引き渡したのかという非難は、そのまま許してやれば良かったと云うことなのか。私が店長の立場だったら矢張り警察に連絡したと思う。店長も警官も生徒が逃げ出すとは思わなかったろうし、遮断機をくぐって電車に跳ねられるなんて信じられない出来事だろう。結果について第三者があればこれ言うのは易いし自由である。然しこの度の店長に対する的外れな非難は、まともな人の共感など呼ぶ訳が無い。いま周囲には、いやーな感じを抱かせる事を平気でする人が多い。物事を正しく冷静な目で見える心を大切に、仮にも己が人様を「いやーな感じ」にさせる事がない様心掛けたい。「世の中捨てたもんじゃない」と思って貰える様に。

編集後記

昨年の夏は、記録的な台風の襲来により日本各地で甚大な被害を被った。新潟中越地方は七月の集中豪雨で刈谷多川が堤防決壊、息つく間もなく十月二十三日、小千谷市を震源とする深度 6 強の大地震が発生した。相次ぐ余震により、一時は十万人を越す方々が避難生活を余儀なくされたのである。

仮設住宅や体育館等でこの新年を迎えられた人々も多く、不自由な生活を強いられている方々の心中を思うと、嘆きの程はいかばかりかと察せられる。東京同窓会からも五万円のお見舞金を送ったが、一時も早い復興を心から願ひ、安穏な生活に戻れるようをお祈りする。

今回、日本全国から大勢のボランティアが応援に駆け付けたが、混乱の中で効率の良い活動をするのは非常に困難なことであつたと聞く。神戸の大震災など過去の災害復興支援から幾多の経験を学んできた中でも、未だに十分な支援システムが出来上がっていないようであるが、この度の自衛隊や各自治体の対応は比較的评价される活動状況であつたと思う。日本には四季があり自然に恵まれた国であるが近年、自然災害が多発しているように感じられる。海水温の上昇など、地球規模で天変地異が起きているのだろうか。人類は無駄な争いや自然破壊などせず、もっと謙虚な気持ちで地球に生息すべきではあるまいか。

最後に広報委員会からお願ひがある。原稿は出来るだけ早めに提供願ひたい。

広報委員会 大橋 記

表紙について

表紙の絵は、平成 15 年 3 月に出版された小出博三氏 (高 8 回) の油絵画集の中にある「雪止む」である。霊峰白山の麓にある名利、慈光寺に通じる参道の杉木立である。白山の登山口は「黄金の里」と呼ばれる銀杏で有名な蛭野部落で、新潟県下でも有数の産地でもある。

大橋 貞夫 (高 10 回)

平成 17 年 1 月 第 38 号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏 (旧中 27) 書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会
広報委員会

事務局 〒157-0061
世田谷区北烏山 3-18-20 八木 又一郎 方
Tel & Fax 03-3307-1048